

い。そんな新しい自分を発見するきっかけになりました。

真っ白い半紙に、一画一画、心を込めて筆を入れ、納得の行く作品を作り上げる。これが自分らしさの象徴です。書道は、自分の心を表現してくれます。心を込めて精一杯の気持ちで真剣に筆を持つことで、白い半紙に自分が描かれていきます。

今では、自分の字にも自信が持てるようになっていきます。自分のよさや可能性を信じ、目標を持って根気強く頑張っていくことは、書道の世界だけでなく、様々な場面でも同じだと思えます。そこには、家族や先生の支えがあり、心と心、人と人とのつながりの大切さがあることを学ぶことができました。

これからも、書道は私の心の支えであり、夢であり、自分の心と向き合うことのできる大切なものです。書道に出会えて本当に良かったです。私はこれからも、書道を通して夢を追っていきます。

「Let's enjoy work.」 田島中学校 2年 星 悠



「働いたら負けだと思っている」これは、先日見たテレビ番組で、自らニートと名乗る男性が言った言葉です。

僕は、「ニート」と呼ばれる人たちは、自分の過去の出来事や性格によって社会に出ることを恐れてしまった人達、自分に自信が持てなくなってしまった人達、そして、働きたくても働けないかわいそうな人達というイメージを持っていました。しかし、この男性は違いました。現在親元で何不自由ない生活をしているので、働く理由がないというのです。しかも、こうしてテレビにも出演することで「ニート」という立場に自信を持っていてるようでした。そして、「働いたら負けだと思っている」という発言をしたのです。この言葉を聞いた瞬間、僕は、とても不

愉快に感じると同時に、働くということは、生活するためだけのことなのだろうかという疑問が、心の中に湧いてきました。

それから数日後、学校で二日間の職場体験学習があり、僕は、町内の花の栽培農家で農業体験をしました。当日、そのお宅を訪れると、お父さんとお母さん、そしておばあちゃんが優しく迎えてくれました。初めての職場体験に不安と緊張を持っていた僕は、その温かさで少しほぐれた感じがしました。しかし、ほっとしたのもつかの間で、いざ仕事を始めると、楽なものではありませんでした。

僕たちの仕事は、ビニールハウスの中で、出荷の終えたかすみ草を抜き取ることでした。きれいに根っこまで抜き取らなければいけないのですが、ハウス内の温度はゆうに三十度を超え、湿気とかすみ草のにおいが充満し、耐えられないものではありませんでした。その上、太く張り巡らされた根っこは、そう簡単には抜けません。抜いても抜いても終わらないという感じが続き、いつしか、我を忘れて時間を忘れてただひたすら抜いていきました。本当に大変な作業でしたが、終わってみると、不思議

な感覚を覚えたのです。それは、言葉に表せないほどの「心地よさ」でした。体の芯から、「心地よさ」を感じたのです。そして、僕自身の疑問に僕自身で答えを出すことができました。「仕事をすることができ、やりがいを求めることに意味がある」のではないかと。やり終えた満足感と、もっとこうしたいという向上心が、やりがいを生み、その気持ちが仕事で形に表せたときに「心地よさ」を感じるのではないかと。

農業体験は、僕他に三人の同級生と一緒にいました。初めは皆口をそろえて「大変だ、嫌だ」の連発でした。ところが、しばらくすると皆の顔は真剣そのものになります。きっと僕と同じ思いで取り組んでいたからだと思っています。その証拠に、終わったときのみんなの顔は、満足そのものといった満面の笑顔でした。

今になって考えてみると、あの時の僕たちの中には、誰よりも早く誰よりも多くの仕事をしたいという気持ちがあったのではないかと思います。少なくとも僕の中にはありました。いい仕事がしたい、喜んでもらいたい。この気持ち、仕事をさらに大変なものにし